

「夢の世界を」 期末テスト対策ポイントまとめ

「夢の世界を」 基本情報をチェックしよう

「夢の世界を」基本データ

作詞者: 芙龍明子 (ふりゅうあきこ)

作曲者: 橋本祥路 (はしもとしょうじ)

速度: ♩. = 84~92

拍子 (ひょうし): 8分の6拍子

曲の調 (ちょう): ハ長調

形式: 二部形式

合唱形態: 斉唱 → 混声三部合唱

「夢の世界を」の歌詞

テストでは、歌詞の一部が空欄になっていて、穴埋めをする問題が出たりするよ。

歌詞は暗記しておこう！

「夢の世界を」では、同じようなフレーズが繰り返されるので、言葉の順番がごちゃまぜにならないように、注意しよう。



「夢の世界を」の歌詞

1番

【Aメロ】

ほほえみ かわして かたりあい
おちばを ふんで あるいたね
なみきの いちょうを あざやかに
いつかも ゆうひが うつしだしたね

【Bメロ】

※ さあ でかけよう
おもいで の あふれる みちを かけぬけ
さあ かたりあおう
すばらしい ぼくらの ゆめのせかいを

2番

【Aメロ】

ことりの さえずり ききながら
はるかな ゆうひを ながめたね
おがわの ながれも すみわたり
いつかも ぼくらを うつしだしたね

【Bメロ】

※くりかえし

【ポイント①】

1番の「いちょうを」のところを、「いちょうも」と間違えて覚えてしまうことが時々あるので注意しよう。

「夕日がイチョウを鮮やかに映し出している」というシーンをしっかり思い描いておくと間違えにくいよ。

【ポイント②】

「でかけよう」とか「かたりあおう」とか、同じメロディの部分では、どっちがどっちだったか、順番があやふやになることが多いよ。



それぞれ、

「でかける」→「出かけるために道をかけぬける」

「かたりあう」→「夢の世界について語り合う」

というように、あとにつづく歌詞とのつながりを意識しておけば、間違えにくいよ。

【ポイント③】

同じメロディの部分なのに、1番では「ゆうひが」になっていて、2番では「ぼくらを」になっているところが、あやふやになってしまうことが多いよ。

ヒントとしては、

1番は「イチョウを鮮やかに映し出したのは何？」→「ゆうひが（うつしだした）」

「ぼくら」がイチョウを鮮やかに映し出すことは普通あり得ないよね。

2番は、「すみわたった小川は、何を映し出したの？」→「ぼくらを（うつしだした）」

ということを意識しておくよ。



「夢の世界を」で重要なポイントはココ！

速度について

「夢の世界を」の速度記号は、♩.=84~92となっているけど、これはどういう意味かわかるかな？

これは、「夢の世界を」を演奏（歌う）ときには、付点四分音符（ふてんしぶおんぷ）が1分間に84回から92回になるような速さで演奏してね（歌ってね）、という意味だよ。

付点四分音符（ふてんしぶおんぷ）とは？

四分音符（しぶおんぷ）（♩）に、点が付いたから、付点四分音符だね。

音符や休符に点が付くと、「その音符や休符の半分の長さを足してあげてね」という意味になるんだ。

だから、四分音符に点がつくと、

「四分音符の半分の長さを足してあげて」ということになるから、

四分音符の半分の「八分音符（はちぶおんぷ）」を足した長さになるというわけ。

つまり、付点四分音符は、「♩+♩」の長さになるんだよ。

たとえば、「夢の世界を」の最初の歌詞の部分で考えてみるよ。

「夢の世界を」の速度記号 ♩.=84~92ってどんな速さ？

♩.が1分間に84回から92回になるようにするので、この「ほほえ」という歌詞の部分は0.65秒~0.71秒くらいで歌わなくてははいけない速さということ！

♪が3つ = ♩.

1) ほほえみ かわして かたりあい
2) なみきの いちようを あきす
3) ことりの さえずり きす
4) おがわの ながれも す

「ほほえみ かわして かたりあい」のところを見てみよう。



「ほほえみ」というフレーズで1小節使うようになっているね。
 この「ほほえみ」の、「ほほえ」が付点四分音符一個分の長さで歌って、「み」の部分でさらに付点四分音符一個分の長さで歌うことになるよ。
 ということは、「ほほえ」という言葉を、一分間に84回から92回くらい言えるような速さというイメージだね。

拍子について

8分の6拍子というのは、「1小節に八分音符が6つ入る」という意味なんだ。
 さっきの「ほほえみ」の部分で考えてみると、
 「ほ」「ほ」「え」はそれぞれ八分音符がひとつづつ。（これで3つの八分音符）
 「み」はこれだけで八分音符3つ分の長さ。

8分の6拍子とは、1小節の中に八分音符が6つ分入るよ、ということ。

♪が3つ + ♪が3つ = ♪が6つ!!

1	ほ	ほ	え	み	か	わ	し	て	か
	な	み	の		い	ち	よ	を	あ
2	こ	と	り	の	さ	え	ず	り	き
	お	が	わ	の	な	が	れ	も	す

全部でちゃんと八分音符6個分になっているね。

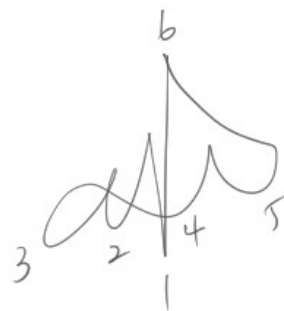


指揮（しき）について

「夢の世界を」は、8分の6拍子の曲だよ。

指揮ももちろん、8分の6拍子の指揮の振り方になるんだけど、ここでひとつ注意ポイントがあるよ。

速度のところで説明したように、「夢の世界を」は速い曲なので、同じ8分の6拍子の指揮の振り方でも「速い速度の振り方」になるので注意してね。



←8分の6拍子の指揮の例

早い速度だと、
細かく振るのが大変だから →
シンプルになるんだ。

見た目は「1,2」という2拍子のようになるよ。



と、



調（ちょう）について

「夢の世界を」はハ長調の曲だね。

シャープやフラットがもともと付いていなくて、主音（音階の最初の音のこと）は「ド」になるよ。

つまり、「ドレミファソラシド」の音階で作られている曲なんだね。



形式について

二部形式というのは、「2つのメロディーによって作られた曲」のことだよ。

歌詞のところを見るとわかるように、

「ほほえみ かわして かたりあい・・・」の「A」というメロディーと、

「さあ でかけよう おもいでのおふれる みちをかけぬけ・・・」の「B」というメロディーの2つが使われているよね。

合唱形態について【良く出る】

合唱形態とは、つまり「どうやって合唱するスタイルなのか？」ということだよ。

女の人2人で合唱するとか、

男女ペアで合唱するとか・・・色々あるよね。

「夢の世界を」はどうやって合唱するかというと、

「Aのメロディー」と「Bのメロディー」で、合唱形態が変わるんだ。



①Aのメロディーの部分は、みんなで一緒に同じフレーズを同じ音程で歌って（斉唱というよ）

②Bのメロディーの部分からは、ソプラノとアルトの女声と、男声に分かれて歌う（混声三部合唱というよ）

というスタイルなんだ。



ソプラノとは

ソプラノは、女の人が歌う、一番高い音域のパートのことだよ。

アルトとは

アルトは、女の人音域を2つに分けたときに、低い方の音域を歌うパートのことだよ。

男声とは

男声は、そのまま「男の人が歌うパート」ということだよ。

ソプラノとアルトのように、男声も何パートかに分かれることもあるけど、「夢の世界を」では、男声は1つのパートしかないということだね。

「夢の世界を」の楽譜では、ト音記号の方に「ソプラノ」と「アルト」が書かれていて、「ヘ音記号」の方に男声が書かれているよ。

使われている音楽記号について

「リタルダンド」
だんだん遅く
という意味。

「ア テンポ」
もとの速さに戻って
という意味。

「テヌート」
その音の長さを十分に保って
という意味。
この場合、♪についているから、
♪の音の長さ分、十分に音の長さを
保つように歌ってね、という意味になる。

音符の下や上に
横棒を引くよ。



リタルダンド

リタルダンドとは、「だんだん遅く」という意味だよ。

「夢の世界を」は、速い曲だったよね。でも、最後の方はもちろんサッサと終わるより、少しゆっくり歌うことで、曲に感情を込めることができるよね。

だから、「夢の世界を」でも、最後の方の小節に、リタルダンドが使われているんだ。

リタルダンドは、「rit.」という記号で書かれるよ。

ア テンポ

ア テンポとは、「もとの速さに戻る」という意味。

「夢の世界を」の最後の方の小節に、リタルダンドが使われるよね。

リタルダンドによって、「だんだん遅く」になっていたのを、「もとの速さに戻る」ために使われているんだ。

ア テンポは、「a tempo」という記号で書かれるよ。

テヌート

テヌートとは、「(その)音の長さを十分に保って」という意味なんだ。

スタッカートは聞いたことあるかな？

同じ四分音符でも、スタッカートがついていると、「タッタッタッ」となんだか弾くように短く演奏したり歌ったりするんだ。

それとは逆に、テヌートが付いているときには、しっかりとその音の長さの分、演奏したり歌うようにする、ということなんだよ。

テヌートの記号は、音符の上や下に棒を一本描くよ。

